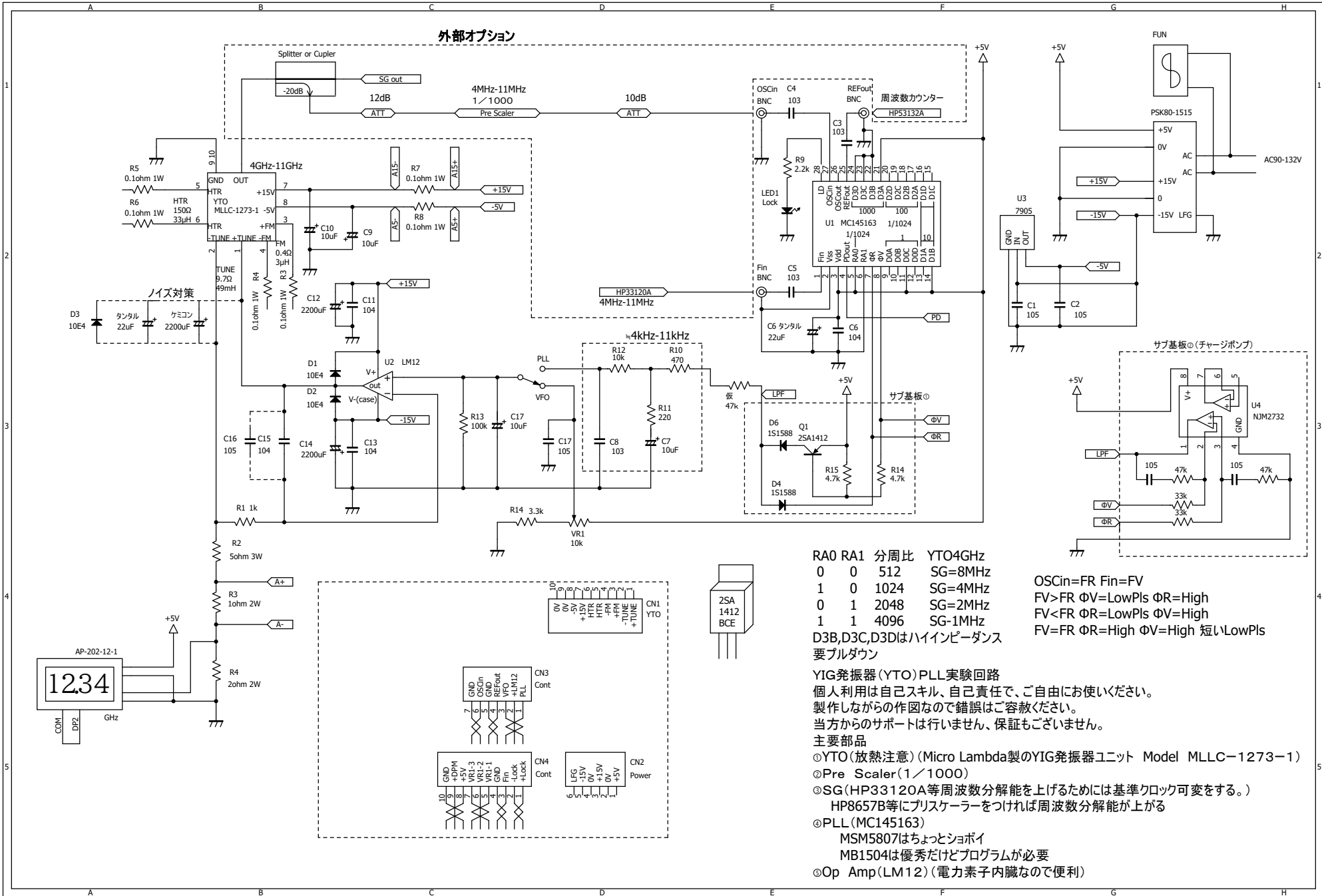


外部オプション



RA0	RA1	分周比	YTO4GHz
0	0	512	SG=8MHz
1	0	1024	SG=4MHz
0	1	2048	SG=2MHz
1	1	4096	SG=1MHz

D3B,D3C,D3Dはハイインピーダンス
要プルダウン

YIG発振器 (YTO) PLL実験回路
個人利用は自己スキル、自己責任で、ご自由にお使いください。
製作しながらの作図なので錯誤はご容赦ください。
当方からのサポートは行いません、保証もございません。

- 主要部品
- ①YTO (放熱注意) (Micro Lambda製のYIG発振器ユニット Model MLLC-1273-1)
 - ②Pre Scaler (1/1000)
 - ③SG (HP33120A等周波数分解能を上げるためには基準クロック可変をする。) HP8657B等にプリスケーラーをつければ周波数分解能が上がる
 - ④PLL (MC145163)
MSM5807はちよつとショボイ
MB1504は優秀だけどプログラムが必要
 - ⑤Op Amp (LM12) (電力素子内臓なので便利)

OSCin=FR Fin=V
FV>FR ΦV=LowPls ΦR=High
FV<FR ΦR=LowPls ΦV=High
FV=FR ΦR=High ΦV=High 短いLowPls